

Catalogue No.
20693-10

1

製土(せいど) | 土をつくる

この粘土から、すべてが始まる。

美濃焼づくりの旅は、「土」から始まります。岐阜県東濃地方では、良質な陶土が採れる鉱山が数多く存在し、古くからやきもの文化を支えてきました。採掘された原料は細かく砕かれ、水と混ぜて泥しょう(粘土のもと)に。その後、脱水・調整を経て、ようやく器づくりに通した粘土へと仕上がります。この地で生まれ、この地で整えられた土が、器の“芯”になるのです。



製土屋さんのひとこと

COMMENT

天気や湿度で、土の表情も変わります。毎日が、土との会話です。



土と火と、人の手の道のりをたどって

美濃焼の工房をめぐる、6つの旅

岐阜県東濃地方を中心に、千年を超えて受け継がれてきた美濃焼。その器が手元に届くまでには、いくつもの職人たちの手と時間が注がれています。このページでは、まるで工房を見学するような気持ちで、器ができるまでの6つの工程をたどってみましょう。

STEP 1

製土

土をつくる



STEP 2

型

形をつくる



型(かた) | 形をつくる

形の原点は、職人の手にあり。

器の形づくりには「石膏型」が欠かせません。まずは粘土や石膏などで「原型」をつくり、それをもとに「見本型」や「使用型」が複製されていきます。石膏は吸水性に優れ、粘土の水分を吸うことで、きれいな形に仕上がるのです。型づくりは地味ながら、器の精度や使い心地に直結する大切な工程。ここにも、目に見えない職人技が光ります。



型屋さんのひとこと

COMMENT

腕の良い原型師はお客さんの要望に応えつつ、センスも織り交ぜながら削り上げます。



原型



製品の原型



見本型



使用型の原型



ケース型



使用型を複製する型



使用型



実際に成形に使う型

実際の生産

